

新型コロナウイルス感染症による本市産業への影響に係る実態把握調査（各産業分野のヒアリング調査結果）

1. ヒアリング・アンケート実施対象

- 農業 JA 兵庫六甲川西営農支援センター【10月7日（水）】
 建設、製造、卸・小売、飲食、サービス 川西市商工会建設・商業・工業・サービス各部会【10月6日（火）】
 観光 川西市観光協会【10月5日（月）】
 市況 まちなかウオッチャ、川西市つながりづくり支援金対象者【10月下旬予定】

2. 各産業分野ヒアリング調査結果の概要

産業分野	全体	農業	建設業	製造業
現状	<ul style="list-style-type: none"> 能勢電鉄の乗降客数は、対前年比で緊急事態宣言期間は4割減、6月以降も2割減。テレワークやリモート授業、外出自粛や車の利用などが要因。 本市は通勤・通学の定期客が多く、観光客が多い他社と比較すれば減少率は小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 国全体では飲食業等の事業者向けは打撃を受けているが、本市は都市近郊農業で事業者向けより個人消費向けが多く、影響は比較的少ない。 事業者向け農産物の売上は減少しているが、市場・直売所等での家庭向け売上が増加。 学校給食が休止になった影響は僅かにあるが、8月以降、給食は再開。 7月の長雨の影響はあるが、例年と売上が変わらない。コロナ発生時期が軟弱野菜の生産時期だったこともある。 いちじく等のジャムは、売上が減少したという話は聞いていない。 切り枝は、華道教室等の休止に伴い、売上が減少している。 	<p>【土木業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今のところ直接的な影響はない。ただし、今後税収の減少により公共工事も減収し、仕事量が激減する可能性が高い。 通常は年2回する除草作業も予算がないため、今年は年1回に減少。 台風の被害が出れば対応せざるを得ず、費用も支払われている。ただし、その際の人夫や価格は減らされるかもしれない。 <p>【建設業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国などからの輸入資材が手に入らず、売上が立っていない。 	<p>【金属加工業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車業界の生産数は5～8月に5割以下に落ち込む月もあった。9月からはメーカーも回復基調にあり、年内には前年比で元の水準まで戻るの見込み。消費者の購買意欲がどこまで戻るのかは不透明だが、一時に比べると改善。 <p>【ガス供給業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 巣籠もり消費で家庭用の消費は増加、飲食店や工場向けの業務用は減少。販売総量は減少したが、家庭用は利益率が高く売上ほど落ち込んでいない。 タクシー向けの燃料は激減。 ガソリンスタンドへの出荷量も落ち込んだが、現在は回復傾向。
課題	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍が今後も継続する場合の鉄道等の公共交通の利用促進。今後もテレワーク等の影響で、定期券利用客が10～15%減少予想。 地域にお金が落ちる仕組みを考える必要がある。 市民に給付金が行き渡っても、不安がある間は貯めてしまうため、悪いスパイラルに陥る可能性がある。 事業者に対する悪質なセールス等の防止。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢の生産者が多く、新たな投資をしてまで生産量や単価を増やす取組をする人は少ない。 都市近郊農業は単価が高く販売できる長所があり、さらに付加価値を付ける取組をする生産者も少ないため、現状を継続することが基本となっている。 新規就農者はごくわずか。 	<ul style="list-style-type: none"> サービス業や商業に1年程度遅れて、建設業への悪影響が来る見込み 公共工事の予算がないことは分かっているが、実際の経営は厳しい。 海外からの資材の輸入再開。 コロナ禍における、住宅購入まで含めた経済循環の促進。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止対策のため、営業や内勤者は2班に分けて交代で出勤。 テレワークを導入しているが、在宅で出来る業務はほとんどなく、「自宅待機」状態。
事業者の対応（案を含む）	<ul style="list-style-type: none"> 従業員・顧客との感染対策の実施。 取引先との無駄な会議がなくなり、時間ができた。 メールやオンライン会議等を利用するよう見直しが進む。 	<ul style="list-style-type: none"> 直売所では以前から個包装での販売に切り替えている（生産者の顔が見える写真付き等）。 直売所等への来店者が増加したため、人数制限を行いながら対応。 生産者がリアルタイムで農産物の売上を確認できるシステムがあり、必要に応じて農産物の追加が出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> 建設協会では、会員に独自で10万円の給付金（市内消費の喚起・会員30社）。 	
行政・支援機関への要望	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍が今後も継続すると事業経営上の脅威。自社だけでは対応が困難。 異業種の事業者が集まり、ウィズコロナ時代の産業のあり方について意見交換ができる場を開催。知恵が出やすい。 コロナ禍で増えた債務を完済できなければ倒産につながる。政策金融公庫や保証協会の融資で一時しのぎが出来るよう、融資額をさらに増額して欲しい。 商売は住民がいることが前提。人口が増えれば仕事も増える。コロナ禍に関わらず、本市の人口減少や少子高齢化対策が大切。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で即売会が中止になった。即売会はPRにもつながるため、再開してほしい。 高齢化などにより荒廃農地が増加している。 イノシシ・シカなどによる農作物の獣害対策について行政支援を期待。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共工事の予算確保。 	

産業分野	卸・小売業	飲食業	サービス業	観光業
現状	<p>【食品販売業】</p> <ul style="list-style-type: none"> パン・ケーキ小売りは4~5月は売上100%以上だったが、6月以降は反動で減少。 川西能勢口駅周辺の売上は落ち込んでいるが、住宅地はあまり落ちていない印象。 	<p>【飲食業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商店街で最もマイナスになっているのは飲食関係。 昼が中心の店よりも、夜が中心の店が厳しい。 4月は5割、5月は3割まで減少。7月になると様々な補助金や助成金、各家庭への10万円の特別定額給付金などがあり、6月は前年並み、7~8月は前年以上。 <p>【宿泊業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 猪名川町の宿泊施設が閉館(コロナ過の影響かどうかは不明) 	<p>【住宅リフォーム業・ビル経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅リフォームは、4~5月は打合せができず仕事にならなかった。6月以降はソーシャルディスタンスを取りながら対応し、今は8割まで戻っている。 ビルのテナントでは、4~6月は営業できない学習塾も多くあった。 小規模テナントはソーシャルディスタンスを取れないために売上が立ちにくく、今年12月や来年3月の契約更新時の撤退が怖い。 <p>【医療・福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商店街でも差はあり、整骨院はあまり減っていない。 	<p>【鉄道】</p> <ul style="list-style-type: none"> 妙見山の観光客は増加。ケーブルやリフト、バーベキュー利用は8月以降好調だが、車利用が増加し駐車場不足。食材の持ち込みが増加。車で直行するため、市内にお金は落ちない。 近場のアウトドアで休暇を楽しむ観光客が増えている印象。 のせでんハイキングは9月から再開。謎解きゲームも好調だが、電車イベントは3密のイメージから申込状況が良くない。 観光客は参加目的を明確にしており、コンセプトが曖昧なイベントには集まらない。 台湾・韓国系を中心に外国人も着実に増えていたが、今はほとんどいない。 <p>【観光バス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ほとんど仕事がなかったが、最近ようやく依頼が増えてきた。 <p>【旅行業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅行会社の4~6月の売上はほぼ無かった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> どこまでコロナ対策に取り組めばいいのかわからない。飛沫感染防止シートを付けている店もあるが、安全という訳ではない。 小規模な店や、高齢者が経営している店はお金をかけてコロナ対策をしていない店もあるため、客足が戻らない。 実際に閉店した店は少ないが、耐えている状況。この状況が続けば、閉店が一気に増える可能性が高い。 川西能勢口駅周辺の中心市街地の活性化。 	<ul style="list-style-type: none"> 夜間中心の飲食業の売上増加策。 店内飲食のみの店舗の売上補填対策(テイクアウト等) 		<ul style="list-style-type: none"> イベント電車は、3密回避のため当面は運行できない。 市内の宿泊施設はわずか。グランピングはニーズがあるものの投資が必要。まずは現有資産で出来ることを模索。 二次交通が脆弱だが、シェアサイクルは管理コストが高く進んでいない。 2025年に関西万博があり、インバウンドは今後増加する見込みのためインバウンド対応に取り組む必要がある。
事業者の対応(案を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 飛沫感染防止シートの取り付け等、コロナ対策を実施。 民間のクーポン誌がなくなったため、自分たちでクーポン誌をつくる計画がある。 県や国からグルメ本を作ってほしいとの依頼もある。 	<ul style="list-style-type: none"> テイクアウト販売を始め、売上が伸びている。継続できれば事業の柱になる可能性がある。ただし、テイクアウトを実施したくても、人員が限られており、思うように売上が上がらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議のあり方など、業務を見直し効率化を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルカー定員を50名から30名に減らし、必要に応じて運行本数を増加。また、抗菌加工等も実施。 3密回避のため車両ではなく駅ホームを活用したイベントを検討。 事前決済が可能なオンラインチケットを導入。 Go Toトラベルは宿泊なしの日帰りイベントにも対応可のため、BBQとリフト券をパッケージ化した商品を販売。 自社HPに観光案内サイトを新設し、観光情報の収集や多言語化を実施。 市内農産物等を活用した駅弁販売(案)。
行政・支援機関への要望	<ul style="list-style-type: none"> イベントの開催ガイドラインの提示。 対策ツール(飛沫感染防止シートや体温計など)の貸し出し。 	<ul style="list-style-type: none"> 市が道の駅などのサテライトショップをつくり、作り置き商品を安い手数料で販売。 		<ul style="list-style-type: none"> 市内には観光地が少ないため、近隣自治体との広域展開を期待。市作成の春里・秋里マップは、市や県を超えて店舗も紹介されており素晴らしい。 商工業関係の支援はあるが、観光系にも支援がほしい。